

博士(ヒューマン・ケア科学)

Doctor of Philosophy in Human Care Science

学位授与の方針

学位を授与するにあたり以下の方針を掲げています。

学際的・複合的な学問領域であるヒューマン・ケア科学において独創的で優れた研究課題を設定し、博士の学位に相応しい成果があり、科学的・系統的に論述し総括する能力および社会貢献性の高い学術論文を公表する能力を有すると認められること。さらに、有資格者(医師、歯科医師、薬剤師、保健師、助産師、看護師、理学療法士、作業療法士、栄養士、社会福祉士、精神保健福祉士、歯科衛生士、保育士、臨床心理士、教師等)の場合には、高度な専門的技術力を練磨し、ケアリング社会の実現に資する実践能力を有すると認められること。

大学院学則に規定する課程の目的を充足した上で、次の能力を有することがヒューマン・ケア科学専攻内規に示した審査会において認定されること。

■ヒューマン・ケアの理念に基づく社会貢献性の高い成果を発信する明確な意思やその能力及び教育能力

■国際社会で人間支援の能力を発揮するためのコミュニケーション能力

■教育学・心理学・医学・保健学・福祉学・看護学等の各専門領域における課題への理解及び課題解決に向けて関係学術領域と連携を図ることができる能力及びその教育能力

■研究者または高度専門職業人としての高い倫理観

■研究チームや組織の一員としての役割を明確に認識し、他職種や他研究領域の研究者と協働のできる能力及び後進への指導に対する高い関心

■自身の研究内容を他の研究領域の者にも適切に説明できるプレゼンテーション能力及び教育能力、また適切な質疑応答ができるコミュニケーション能力

教育課程編成・実施の方針

ヒューマン・ケア科学を構成する複数の関連する学問領域を理解し、人間支援の前提となる全人的理解、援助方法の策定と介入方法および社会制度・政策論をクリティークするまでの一連の研究過程について、問題解決に必要な高度で専門的な理論と実践方法を修得し、創造性及び自己推進力を涵養するための教育課程を編成しています。

■必修科目として共通科目にヒューマン・ケア科学基礎論、研究方法がそれぞれ3単位設定され、関係研究領域の概念や課題、そしてその課題解決のための専門領域のアプローチ方法について、基本的な知識を習得し、ヒューマン・ケア科学としての基礎を身につけます。またこれにより学際的な研究交流の実施ができるコミュニケーション能力を獲得します。

■専門科目として6単位以上、主に指導教員の研究領域の科目を学習し、高度な研究が実施できる研究能力を獲得します。

専門科目は具体的には各分野において、必要な知識の習得やコミュニケーション能力、教育能力の獲得を目指した演習と、高度な研究能力や教育能力を獲得し、学位論文を作成する能力を獲得できることを目指した特別研究から構成されています。

また大学院共通科目については、必修とはしていませんが、研究者、大学教員、高度専門職業人としての倫理観や基礎的な素養を習得するために、その履修を強く勧めています。

達成度評価

■標準履修年次である3年間の修了(学位記授与)を念頭に指導教員のみならず複数の副指導教員での教育体制を確保し、丁寧に質の高い指導を計画的に行います。

特に博士(ヒューマン・ケア科学)では、ヒューマン・ケアの理念に基づく社会貢献性の高い成果を発信する明確な意思やその能力及び教育能力や、教育学・心理学・医学・保健学・福祉学・看護学等の各専門領域における課題への理解及び課題解決に向けて関係学術領域と連携を図ることができる能力及びその教育能力等の達成状況を確認します。

また、具体的な指導として履修科目やその単位数、学位論文の進捗状況、障害となっている事項、投稿論文の進捗状況等を確認し、その達成状況を教員と学生が共有するとともにこれらに対して教員が適切な指導を実施しています。またこれらを通じてコミュニケーション能力、研究倫理観、学際的視点の深度等も確認します。■3月ごとに学修指導を実施し、研究の進捗状況や今後実施すべき内容等に関して、学生が指導教員及び副指導教員との間で十分な意思疎通の下で共有できます。

学位授与の体制など

■標準履修年次である3年間での修了(学位授与)をめざし、標準学修課程フローチャートにより計画的・継続的に複数の教員から指導を受ける体制を整えています。表1に示しましたが、学生及び教員に専攻内規集として配布し周知しています。指導経過については3月ごとに学修指導記録として提出され、専攻教育会議において各学生の研究進捗状況が確認されています。

■学位論文審査会までに、中間審査会と予備審査会が

あります。

■中間審査会において学位論文のテーマと全体計画及び研究内容に関して理論の一貫性等が確認されます。またその際に他の研究分野の教員から異なる視点からの指摘を受けたり、指導がされます。また学生間での討論ができるように、学生からのコメントが評価を受ける側の学生に文章で渡され、今後の研究の参考とされます。

■予備審査会にて、学位論文として質の審査や学術論文を投稿しているかが確認されます。審査会には指導教員と異なる研究分野の副査も参加します。

■学位論文審査会では予備審査会の主査・副査に加えて、他専攻から副査を追加し、より学際的な視点からの審査が実施されます。

■学位論文審査のより高い公正性と学際的視点を重視する観点から、可能な限り指導教員を主査としない工夫をしています。

学年	スケジュール
1年次	学位論文テーマの決定
	指導教員・副指導教員の決定
	共通科目履修による学際性の涵養 TA等による指導力・教育力の修得
3月ごとの学修指導	
2年次	中間審査会の参加
	研究内容の審査
	発表能力の修得
	他研究への吟味的評価 学会発表の実施
3年次	学会誌への投稿準備 3月ごとの学修指導
	学会誌への投稿
	予備論文の提出と予備審査
	学位論文の提出と学位論文審査 成果発表会にて学位論文のプレゼンテーション

表1 ヒューマン・ケア科学専攻の標準的年次課程